

県道冠水問題・国交省と芦北町へ要請

国交省は冠水が電源開発の責任か不明と曖昧な回答。芦北町はやる気なし！

瀬戸石ダムを撤去する会では、10月19日、今年7月の吉尾地区、簸瀬地区の県道が冠水した問題について、国土交通省と芦北町に要請しました。国交省には「現行の堆砂処理計画を見直し、県道の冠水被害を無くすために吉尾川の土砂撤去を行うよう電源開発を強く指導する」よう要請しました。

芦北町には県道冠水問題以外に、住民向けのダム湖の土砂撤去工事の説明会の開催、土砂の仮置き場を早く見つけることを電源開発に求めるよう要請し、また球磨村が行っているような簸瀬地区、吉尾地区に対して市房ダムの放流など球磨川に関する防災放送・メールサービスを行うことを要請しました。

その後、国交省に確認した所、国交省は要請内容を電源開発に伝えるとは回答しましたが、県道の冠水問題については、「道路冠水が残るのであれば電源開発、道路管理者、河川管理者の三者で協議したい。ただ今回の県道冠水が電源開発の一方的な責任であるかどうかは分からない。定期検査の指摘事項通りの洪水が発生したのかどうかは分からない」など河川管理者として曖昧な回答に終始しました。これでは、なぜ定期検査を行っているのかさえ分かりません。

芦北町は、当会の要望について、全くやる気を感じられない対応であり、積極的な回答は全然ありませんでした。住民が県道冠水で被害を受けているに関わらず、その住民の立場に立って、電源開発に物を申すという姿勢がないのは問題です。



国交省要請(八代市、左)と芦北町要請(右)

公共事業チェック議員の会に現地視察の依頼をしました

国会議員の立場から公共事業の問題に取り組む議員グループ「公共事業チェック議員の会」に10月18日、瀬戸石ダムの現地視察の依頼をしました。土砂撤去工事が行われる12月から来年2月迄に現地視察と住民からのヒアリングを依頼しています。同会事務局長・初鹿明博衆議院議員（立民）は訪問したい意向を示しているとのこと。視察が決まったら、お知らせします。